



福井と地区の絆のために

(福井県第1グループ)

ガバナー補佐

松原 六郎

(福井フェニックスRC)

この度、平井義久ガバナーのもと、ガバナー補佐をさせていただきます松原六郎と申します。所属は福井フェニックスロータリークラブです。担当は福井第1グループです。福井市を含む嶺北および奥越が活動範囲となります。

前年度ガバナー補佐になり、何もお手伝いできないまま2年目となりました。本当に多くのロータリアンに出会って、そして、お世話になりご指導いただきました。このことが最大の喜びでした。今年度もそんな出会いとご指導をお願いしたく、各クラブにお邪魔をしたいと思っています。どうかよろしくお願い申

し上げます。

今年度は、「絆」という素晴らしいテーマになりましたが、私なりに以下の重点目標を掲げてみました。

1) 平井ガバナーやガバナー事務所の皆様に公式訪問だけでなく、機会あるごとに来福をお願ひし、クラブと地区の絆を深めることに努力する。

2) 福井第1グループの各クラブ同士が、親睦活動などを通して、絆を深める。

3) 新しい福井水仙ロータリークラブや、その会員の皆様が、ロータリー活動に積極的に参加され、多くのロータリアンとの交流を深めるようお手伝いをする。

4) 地区の各委員会活動の状況をできるだけ把握し、一人でも多くのロータリーメンバーが地区委員会活動に参加されるようお手伝

いをする。

以上の重点目標は、非力な私にとってかなり難しい課題だと思ひます。しかし、多くのメンバーの皆様のご指導、ご助言を頂戴して何とか達成したいと思ひます。本年度もどうかご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



効果的なロータリーを目指して

(福井県第2グループ)

ガバナー補佐

石川 満夫

(武生RC)

本年度も、福井県下第2グループ7クラブ担当のガバナー補佐を続投することになりました。

ガバナー補佐は3年目となるのですが、ロータリーに徹し、寸暇をも惜しみ精力的に“行動”を起こされる神谷、大久保両ガバナーの真摯な姿に接し、唯々感歎するばかりで、ガバナーをアシストするという責務をはたせたかどうか、内心忸怩たるものがあります。いまさらの感がありますが、一層の研鑽を積んで微力を尽くすつもりです。

「LEAD THE WAY」(率先しよう)

『寛容と思いやりと誠実さを日々実践し、自らが手本を示すことによって、ロータリー

道を率先しよう』と、ウィリアム B. ポイドRI会長は呼びかけます。

平井義久ガバナーはこれに応じて、『ロータリアン同士の「絆」、家族との、さらには地域の人たちとの「絆」を深め、協同して奉仕を行う』ことを強調されています。思いやりの心で強く結ばれ、心の通い合う「絆」のもとでの奉仕活動は、大きな感動を呼び起こすことでしょう。

変革し成長するロータリー、第2世紀に入り、クラブ リーダーシップ プラン (CLP) が本格的に導入されました。CLPはロータリーの衰退が危惧される中で、クラブの管理システムの枠組みを簡素化して (5つの常任委員会に抑えて)、マイナーなクラブを組織構成上の重荷から解放し、効果的なクラブにしようとするものです。また、各クラブはこの枠組みを土台として、独自の特性を活かし

て拡張し、より効果的にする、そうして、すべてのロータリーを活性化しようというものです。

というものの、新システムはまだまだ消化不良の感がします。枠組みが変わっただけで、本質が理解されず、うまく機能しなければ実効はあがりません。もっともっと咀嚼する要がある様です。

目指すところは、より良きロータリー、より良きロータリアンです。

LEAD THE WAY - 率先しましょう。



ご挨拶

(滋賀県第1グループ)

ガバナー補佐

松村 憲一
(大津東RC)

図らずもご指名を頂き今年度のガバナー補佐を、前任の上杉ガバナー補佐から引き継ぐことになりました。

もとより浅学非才の身、ロータリー活動も十分出来ていないにも関わらずこのような大役をお引き受けするのは、身の程知らずの無鉄砲だと今更ながら肩をすぼめております。しかし、いったんお引き受けした以上は、皆様のご協力を頂いてその責を努めたいと思っております。

今年度のRIテーマ「LEAD THE WAY」から平井ガバナーは率先して奉仕を行おう、そしてその原動力は「絆」だと規定されまし

た。

この「絆」はロータリーの、ロータリー・ファミリーの「絆」であり、家族との「絆」であり、そして地域社会・コミュニティの「絆」であるとし、この「絆」が機能すればロータリーの、ロータリアンの行動は「率先しておこなわれる」と看破されています。

CLP（クラブ・リーダーシップ・プラン）も今年から実行されます。クラブでは多少の混乱も出る可能性があります。特にクラブ管理（運営：従来のクラブ奉仕）に関して疑問点などが出てきましたら、是非補佐を使って頂きたいと思っております。ガバナーと相談の上、一刻も早く解決のサジェッションをお伝えできる様にしたいと考えております。

身の丈を上回る大役ですが、皆様から教えられ、一緒に考えながら活動したいと思っ

ております。そして、この一年「絆」— 奉仕の感動を皆さんと一緒に分かち合えれば、その責を果たせることにもなります。何卒よろしくご指導を賜ります様お願い致します。



二年目のガバナー補佐として

(滋賀県第2グループ)

ガバナー補佐

藤田 益平
(彦根RC)

本年度も引き続き滋賀県第2グループをお引き受けすることになりました。先の一年間のガバナーの公式訪問に同行させていただき、また地区内の会合に出席させていただきました。また地区内の会合に出席させていただき数多くのロータリアンにお目にかかって、大変勉強させていただきました。大久保ガバナーは熱心に拡大につとめられ、他府県では成果も表れていますが、滋賀県内では何回かの会合を持ちましたが機が熟せず残念ながら中断のやむなきにいたりしました。

2年目を迎え昨年のいたらなかったところを反省し、地区と各クラブの間のパイプ役と

してお役に立てさせていただきたいと思っております。

今年度はCLP導入という大きな変化のある年になりました。各クラブではほとんどが採用されていますが実際の運用面ではとまどいが感じられます。単に委員会構成を変えるだけでなく、その精神を理解し順調に始動し、その成果が現れるまで時間を要するようですが、今後ともこれについて研究していきたいと思っております。

今年度RIビル・ボイド会長は強調事項として、水保全 識字率向上 保健および飢餓ロータリー家族を選ばれました。我々琵琶湖を有する滋賀県では各クラブとも古くから水保全については先覚的な活動を続けてきております。今後とも地域に根ざしたこの活動を続けて生きたいと考えています。広報につい

ては昨年せっかく県域紙が誕生しこれとタイアップして広めたいと思っておりましたが、残念ながら短期間で休刊となりました。しかし全国紙も滋賀版を拡大しているので機会は増大していると考えられます。各クラブともそれぞれの立場での広報に努められるように希望します。



強いロータリー

(京都市域第1グループ)

ガバナー補佐

太田 和夫

(京都モーニングRC)

この2年間、ご協力下さいました担当クラブの会長、幹事そしてクラブの皆様有り難うございます。もう1年間よろしく願い致します。

2003～2004年のRIテーマは「Lead a Hand」「地球社会の問題に手を貸し、手を差し伸べる」でした。今年度のウィリアム B. ボイド会長のRIテーマは「Lead the Way」「地域社会へのリーダーとしての役割を果たして下さい。現状維持でなく、先陣を切って」であります。行動するロータリーの姿勢は同じですが、言葉の中に強い姿勢を感じます。また、今年の会長エレクト研修セミナーで千玄室RI元理事が基調講演で「Lead the Way」を「Forward Looking

Posture」「前向きの姿勢」と云う言葉で表現されています。「前向きの姿勢」は現在の強いアメリカの姿勢であります。強いアメリカの姿勢からその言葉には「強いロータリー」との言葉の響きを感じます。

強いロータリーになるためには、若い会員を継続的に入会させ、ロータリーの理念を単純で明瞭にして、ロータリーへの理解を深め、その質の向上と充実に努めることが必要ではないかと考えます。

今年からクラブではCLPの導入による4大奉仕が「理念及び実践の枠組」として大委員会から外され、機能別による委員会編成となり、また、継続の重要性から水保全、保健と飢餓、識字率の向上の強調事項は継続され、じっくりと腰を下ろした奉仕ができるようになってきています。強い組織にははっきりした方針とプログラムは欠くことが出来ない大切なものであります。

平井ガバナーは地区テーマを「絆」とされ、奉仕の感動を分かち合おうとされています。感動のない仕事には成功はないとの考えから強い「絆」のもとでの新しい挑戦事項に取り組み、これらが達成されるまでやり抜く心構えを指示されています。強いロータリーになるためには、強いリーダーが必要であります。

ガバナー補佐として平井ガバナーのリーダーシップとチームワークに協力出来ることを楽しみにしております。



ガバナー補佐就任のご挨拶

(京都市域第2グループ)

ガバナー補佐

今西 信裕

(京都南RC)

このたび、ガバナーエレクトにご就任された京都東ロータリークラブ橋本長平様の後役にと、京都第2市域担当のガバナー補佐の大役のご指名を受け、引き受けさせていただきました。もとより、浅学非才、ロータリーについてもまだまだ勉強中の身ではありますが、先輩諸兄のご指導の下、受けた以上全力を投入して、その責務を全うし、少しでも皆様のお役に立てればと考えております。皆様のご協力、ご指導を心よりお願い申し上げます。

さて、ガバナー補佐の役割は、指定されたクラブの管理運営について、平井ガバナーのお考えを、担当クラブ会長に伝え、クラブ運営が活性化するようにお手伝いをさせていた

だくことであります。まさにガバナーの黒子であります。

特に本年度は、各クラブがC.L.P. (クラブリーダーシッププラン) の導入について、自主的に決定される重要な時であります。私の属する京都南RCでは、幸い、2004～2005年度に方針決定、2005～2006年度で暫定的に実施、本年度より本格実施の体制に入っております。多少先行した経験もありますので、私どもの例を一つの参考にそれぞれのクラブに合ったC.L.P.をご相談して、考えていきたいと思っております。

まずは、各クラブの会長様、幹事様とお互いに良く知り合って、信頼を得て、人間関係を作り、ロータリーの友情の上に、お互いにその任務を楽しめるようにEnjoy Rotaryが出来るように努めたいと存じます。

本年度は、RI「率先しよう」のテーマの下で、平井ガバナーは「絆 — 奉仕の感動を

分かち合おう。」を掲げ、現状に決して満足することなく、私達は先頭に立って行動し、「奉仕の理想」の実現を、ロータリーの道を率先しなければならぬと力説されています。「ロータリアン」や「地域の人々」との強い「絆」をもとに行われる奉仕は、「感動」を起こし、その「感動」がさらなる奉仕への率先への力となります。「ロータリーは地球村のリーダーです」と言われたボイドRI会長の思いに通ずると存じます。

平井ガバナーのために、また各クラブの会長様を始め会員各位のために、RI2650地区のために、国際ロータリーのために一助になればと、謙虚にロータリアンとしての誇りを持って努力したいと存じております。



ロータリーの心

(京都北部グループ)

ガバナー補佐

高倉 信正
(綾部RC)

私がロータリークラブに入会した1976年にはどのクラブにも手続要覧の手引と云われる人が数名在籍され、色々とロータリー情報を教えて頂きました。そしてロータリーを知り、ロータリーを理解し、ロータリーの心を毎日の行動に結び付ける様に指導をして頂きました。

2650地区の現状を見た時、此の10年余りで1000人以上の会員が減少し地区運営や各委員会活動にも影響を及ぼしております。その原因を考えた時ロータリーに魅力が無くなったのか、社会現象が厳しい時代を迎

えたのか、人口構成の変化によるものか、ロータリアンの質の問題か、今こそ検討を加えなければロータリーもますます衰退してゆくと思っております。

各クラブに考えて頂きたいのはロータリアンに業界リーダーとしての倫理観、すなわちロータリーの提唱している綱領の理解とその意味するところの「心」を実践すること。その結果としてロータリーの夢破れた退会者が再入会したくなるようなムードが出来、同時にロータリークラブに入会希望する新入会員が増加してゆく様になればと思っております。

新しい世紀を迎えた今こそポール・ハリスの「ロータリーの心」を指針としてロータリ

ー組織を盛り上げてゆきたく思います。メンバー各位も再度「ロータリーとは」と考えて頂ければ幸いに思います。



2年目の実践

(京都南部グループ)

ガバナー補佐

内藤 雅夫
(京都乙訓RC)

「他人への思いやり・助け合い・そして役立ちの心」を胸に秘め、ガバナー補佐を拝命して、最早一年を経た。その間、担当11クラブには、随分御迷惑をおかせし乍らも、丹念に訪問し、感動させられ、教えられ、又自己研修も試み乍ら、感動の裡に終了出来たことは、望外の喜びである。然し乍ら、私の前任で、素晴らしい趣味に富み、ロータリアンの鑑とも申すべき吉村好司様の御急逝は、私にとって、筆舌に尽かせない悲しい事だった。奉書の好きな私宛の書信は、いつも墨跡鮮やかに、丁寧な文章に終始していた。故人に対して感謝で一杯であり、謹んで御冥福をお祈

り申し上げる次第である。さて、担当クラブを訪問して感じた事は、現在の世相を反映して、殆どのクラブが会員減少防止に努力され、クラブ管理はもとより、CLP導入に伴う諸問題を含め、広報・奉仕プロジェクト・財団と山積する問題対策に大奮闘中である。

就中、職業奉仕の実践活動や社会・国際奉仕活動にも、地域とのコンセンサスを得、立派に進行中のクラブもあり、頼もしい限りである。例会の出席率向上にと、落語家を招き「落語例会」、季節に応じた移動例会、周年事業を加味した例会。又、新入会員に「ロータリーの綱領」を誓読して戴く入会式など、初めて拝見・体験した私は、心から感動した。後日、そのクラブの親クラブに尋ねたところ、「私共の誇り!!」と胸を張って答えられたのは、とても印象的だった。ところが、端的に

言うと、ロータリーに変向がみられる様になった。つまり世界的かも知れないが、ロータリーがボランティア志向へと変わる様な風潮が見え、本来の奉仕の理想の神髄が、蔑ろにされ、他のNPOと同じ様な単なるボランティア団体化して行く形態になる様に思えるのは、私の僻みであろうか。「他人への思いやり・助け合い・そして役立ちの心」で、本年も精進致し度い。



ガバナー補佐就任あいさつ

(奈良県第1グループ)

ガバナー補佐

松岡 泰夫

(奈良RC)

この度 箸尾補佐のあとを引き継ぎ、奈良第一グループ担当のガバナー補佐を仰せつかりました。何卒よろしくお願い申し上げます。私の役割はガバナーの方針を担当クラブに伝えると同時に各クラブが地域での活動にガバナーからの助言を受け継ぐ事であります。その事によってクラブの活動が効果的に機能し、地区の活動も高まればと思います。

国際ロータリー、ウィリアム・B・ボイド会長は「超我の奉仕」をただ掲げるだけでなく、常に誇りをもってそれを実践することを求められ、ロータリーの理想に従うことで、地域社会をより充実させ、よりよい未来へ向

けて「率先」していくように私たちに指示しておられます。

LEAD THE WAY「率先しよう」の国際ロータリーのテーマを受けて、平井ガバナーは「絆—奉仕の感動を分かち合おう。」の地区テーマのもとに、地域の方との「絆」、家族との「絆」、ロータリアン同志の「絆」を深め、協同しての奉仕を求めています。そうして結びとして、強い絆のもとでの奉仕は感動をよび、奉仕の輪をひろげ、明るい未来を築いてくれる。その為にロータリアンは奉仕の先頭に立って、「率先」するよう示しておられます。国際ロータリーのテーマ「率先しよう」とR.I.D.2650の平井ガバナーのテーマ「絆」奉仕の感動を分かち合おうの目標に向かって私たちロータリアンの本年度行動指標が設定されました。

本年は「地区リーダーシップグラン」が当地区でも、採用されます。クラブの長期的活動目標の計画を作成し、地域と継続性のある事業を展開されますことが肝要であろうと思います。

本年一年間何卒よろしくお願い申し上げます。



「絆」を強めて「率先しよう」

(奈良県第2グループ)

ガバナー補佐

村島靖一郎

(大和高田RC)

この度、昨年に続き、2年目のガバナー補佐を仰せつかりました。担当する各クラブのご協力とご好意によりまして、大過なく初年度を務めさせて頂く事が出来ました。今年度も相変わりがせず宜しくお願い致します。

私の担当6クラブは会員の数こそ差異がありますがものの、皆夫々に積極的な奉仕活動を展開されて居り、「立派」の一語に尽きます。6クラブ全部が、ガバナー賞を獲得されました事が、その間の状況を良く表しています。百名を超す会員数のクラブもありますが、少人数のクラブの方が返って全員一丸となって奉仕活動を積極的にされているように感じま

した。

昨年度よりCLPを採用する事が推奨されてきて、担当する6クラブ共CLPに基づく委員会構成は出来上がっていますが、如何に活動をするかが問われる一年になるわけです。

私も更に勉強を致しまして、平井義久ガバナーのご指導のもと、地区とクラブ相互間の絆を強くしていく事に努力致したいと思っています。平井義久ガバナーの地区のテーマとしてあげておられるのは「絆」ですが、特に強調されていますのが、「奉仕」をする事により得られる「感動」こそが、「絆」を強めるのだと力説されています。「感動」の得られるような「奉仕」をしてほしいという事です。

ウィリアム・ビル・ボイドRI会長も「率先しよう」と我々を叱咤激励され、その奉仕

の強調事項として、昨年度に続き、水保全、識字率向上、保健及び飢餓、ロータリー家族、を上げておられます。

さあ 我々の奉仕の対象も決まりました。皆様相共に実りある一年になりますよう頑張りましょう。